

平成27年度 武漢市学校交流事業 派遣期間中の活動報告

平成28年3月20日(日)～27日(日)

1日目 3月20日(日)

○移動

- ・飛行機：福岡空港～上海空港～武漢空港（所要時間 約5時間）
- ・武漢空港に到着後、生徒はホストファミリーの自家用車で各家庭へ、引率者は、外国語学校の教師の車でホテルへ案内される。



2日目 3月21日(月)

○体験入学

- ・所属クラスでの歓迎式
- ・授業参加（漢詩）～黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之を送る
- ・全校集会参加（国旗掲揚式）
- ・授業参加（美術）
- ・武漢市の紹介
校長等 学校関係者による歓迎昼食会
- ・授業参加（音楽）
- ・授業参加（体育）グラウンドで体を動かす

武漢外国語学校に到着した。大学のような広大な敷地、大きな校舎、広いグラウンド等を見ながら、所属クラスに入室した。

歓迎会では、大分西中3人の生徒が自己紹介をした後、クラス内の生徒がそれぞれ自己紹介をしてくれた。そこでクラスの生徒たちの活気や温かい雰囲気を感じることができた。

最初の授業は李白の漢詩の授業で、昔の中国の衣装を着させてもらったり中国語の発音を丁寧に教えてもらったりしながら、武漢にある黄鶴楼の説明をしてもらった。10時から、毎週月曜日に行われている国旗掲揚式に参加した。そこで、生徒3人と引率教師が挨拶をした。

次の美術の授業の後に、校長先生をはじめとする武漢外国語学校の先生方と記念撮影をし、学校の中にある食堂の立派な一室で昼食を共にした。

午後からは音楽の授業に参加させてもらった。生徒による「古箏」「ピアノ」「ギター」

の演奏を聴き、みんなで北京オリンピック（2008年）開幕式での歌「我和你」を歌った。その後、テニスやバドミントン、サッカー、バスケットボールなど、活動したい種目に分かれて、体を動かした。

授業が行われた全ての教室の黒板や学校の電光掲示板に、「歓迎」の文字と私たち4人の名前が書かれており、また、授業に参加するたびに、挨拶や拍手で迎えてもらったりして、その心遣いに感謝するばかりだった。

3日目 3月22日（火）

○校外見学

- ・黄鶴楼見学
- ・帰元寺見学
- ・スーパーマーケット（イオン）見学



朝、武漢外国語学校に集合して、この日は観光に連れて行っていただいた。武漢の先生と日本語を勉強している6名の生徒とともに1日を過ごした。

花が美しく咲き誇るなだらかな丘を上がっていくと黄鶴楼が見え、その立派な構えに思わずシャッターをきった。黄鶴楼の最上階の展望台からはやや霞んではいるものの、雄大な長江の流れを見ることができた。昼食後、帰元寺に寄り、お寺の様子や中国式の参拝の仕方を知った。（腕いて3回頭を下げる）最後に武昌にあるスーパーマーケット（イオン）に立ち寄り、学校に帰ってから解散となった。日本の3名の生徒たちは、車内や観光地で外国語学校の生徒たちと会話し、親交を深めた様子であった。とても楽しく有意義な1日であった。

4日目 3月23日（水）

○体験入学

- ・授業参加（数学・国語）
- ・ギョーザ作り
- ・授業参加（美術・水墨画）
- ・サークル活動



本日は、数学と国語の授業に参加させていただいた。日本では中学2年生の学習内容である、連立方程式を1年生で学習していて驚いた。

授業の後、11時半頃～餃子とお団子の作り方を教わった。餃子の形はワンタンの場合、餃子とは違うお花のような形で種を包み、小さめに作る、ということ。また、沸騰したお湯で茹でてその湯もスープとしていただく、など地の国の食文化に触れることができた。ちょうど昼食の時間であったので、ワンタンも餡入りのお団子もとても美味しくいただいた。

午後からは水墨画の授業に参加した。水墨画の先生に今年の干支である「申」の描き方を教わり、それぞれがユニークな「申」を描くことができた。

5日目 3月24日(木)

○校外見学

- ・漢街見学
- ・湖畔で昼食
- ・東湖にてボート乗り
- ・歴史ある街並み散策



この日は日本語教室の2年生3人と1年生4人と一緒に校外学習に出かけた。

まず、有名ブランド店が数多く立ち並ぶ巨大なショッピングウォルマート街（漢街）を見学し、そのあと湖畔で昼食をとり、東湖でボートに乗せていただいた。

東湖の大きさや景色をボートに乗りながら眺めを楽しもうと考えていたものの、私たちがボートに乗った途端にエンジンがかかり、水上バイクのようなスピードで進んでいった。そのスピードと

スリル感を味わい、頬に風を受けながら、豪快に湾内を1周した。最後に1980年代の古い街並みを残す「通り」を散策した。

武漢外国語学校の生徒と一緒に歩いたり、ボートに乗ったりしながら、親睦を深めた。

6日目 3月25日(金)

○体験学習

- ・授業参加(体育)太極拳
- ・授業参加(3年生日本語クラス)
- ・学校での送別会
- ・各ホームステイ先でのギョーザパーティー(1軒訪問)



この日は、川のほとりで、専門の先生に太極拳を教わった。太極拳用の衣装も着せていただき、色々な「形」を教わった。その後、昨年日本に交流で来ていた王君、王さんたちのいる日本語クラス3年生の授業に参加した。この日は、日本の「地名カルタ」と、「伝言ゲーム」をグループの人たちと一緒に楽しんだ。

午後からの送別会は、学校にあるホールで行われ、多くの人々と別れを惜しんだ。校長先生やホームステイ先の保護者から送別の言葉を受けた後、日本の3人の生徒は、それぞれが挨拶をしてから、3人で「ラジオ体操」や「南中ソーラン」を披露した。現地の生徒は、日本の歌を歌ってくれた。

夕方からは、それぞれのホームステイ先でギョーザパーティーが開かれた。近所の生徒や知り合いのご家族の方も参加し、お別れを惜しんだ。

7日目 3月26日(土)

○各ホストファミリーとともに終日行動

武漢最終日はホームステイ先の家族とそれぞれが行動をとともにした。ショッピングにでかけたり、街を散策したりした様子であった。生徒たちはそれぞれ楽しい1日を過ごし、夜ホテルに集合した。ホストファミリーの方々と別れる時に涙を流す生徒もいた。

8日目 3月27日(日)

○移動

- ・飛行機：武漢空港～上海空港～福岡空港(所要時間 約5時間)
- ・バス：福岡空港～別府北浜(所要時間 約2時間)

○所 感

事前説明会が数回あったものの、上海での乗り換えや、中国での生活に不安を抱えたまま、福岡空港を出発した。上海空港での入国審査中に、乗るはずの飛行機が十数人を残して先に飛び立ってしまう、というハプニングがあったものの、なんとか無事に武漢空港に到着することができた。

武漢空港では、2時間近く歓迎の方を待たせてしまったにも関わらず、武漢外国語学校の先生方やホストファミリーの方々が温かく迎えてくださり、私たちの不安と緊張も一気にほぐれた。大分西中学校で1ヶ月間、留学生の引率に来られた劉先生や子どもたちの顔を見ることができ、心強く安心することができた。

次の日、武漢外国語学校へ行く途中、車の中から見えた、建物の高さと多さ、道路の広さ、武漢市の大きさに、まず驚かされた。40分後、外国語学校へ到着してから、まず1年生のクラスで歓迎の会があった。大分からの生徒一人ひとりが自己紹介を行い、現地の生徒も自己紹介をしてくれた。とてもアットホームで友好的な雰囲気にならされた。

授業では、漢詩・美術・音楽・体育・数学・国語・水墨画・日本語教室・美術・太極拳など様々なクラスで授業の雰囲気を味わわせてもらった。現地の生徒の積極的な様子、クラスの子どもたちが仲間の一人ひとりを大切にする様子、学習内容が日本よりも少しすすんでいるということなど、たくさんを感じることができた。授業では、黒板とタッチパネルを併用してすすめていくものが多かった。音楽の授業では、古箏やピアノ、ギターのソロ演奏を聴いたり、水墨画の授業では、先生の目にとまった生徒の絵をみんなで鑑賞したりした。その高い芸術性に感心するばかりであった。

市内の観光にも連れて行ってもらった。参加者は、日本語コースの1年生3人、2年生3人（日によってメンバーを入れ替えて）と大分からの交換生3名で移動をする車の中や、見学地で一緒に行動をする中で交流を深めることができた。日本とは違う建物のつくりや、観光地のスケールの大きさや雰囲気を知ることができた。

また、食事やトイレ、家の中を靴で歩くこと、など若干の文化の違いに戸惑いながらも、学ぶことが多かった。日本にいて見聞きする、中国に関しての報道からだけでは伝わらない面も知ることができた。中国は非常に多くの人口を擁し、住む場所、水、食べ物など資源をいかに無駄なく使うことができるか、ということが以前からの大きな課題であると思われる。日常生活の少々の不便さは、そういった視点からみると、合理的で理にかなっていると感じられた。

さらに、人々の親切さや温かい気持ちにも感動した。家族や仲間をととても大切にする国民性、人として忘れてはならない思いやりの気持ちや素朴さを、ふれあった多くの人々から感じることもできた。

あっという間の1週間で、お別れの時に生徒が涙を流す様子を見てみると、このような機会がいかに貴重なことであるかということに改めて感じた。ホームステイ先の生徒が、今年の6月に日本に来る予定であることを聞き、「大分で、また会いましょう。」と約束して武漢に別れをつげた。

中学生というこの時期に言葉や文化の違いを超えて友情と信頼で結ばれることのできる、この交流事業は、とても価値のあることであり、多くのことを学べる、貴重な機会であると思われる。今回の交流事業で学んだことや感じたことを本校の生徒たちに折に触れて伝えていくなど、本市の学校教育に生かしていきたいと考えている。今後も親睦を深め、大分市と武漢市の交流がますます発展することを願っている。